

# 令和元年度 川崎市立日本民家園事業評価シート

## ■評価

つぎの3段階とする。

A:目標を充分達成し成果を上げている

B:目標を概ね達成している

C:目標を達成しておらず改善が必要である

## ■今年度の重点目標

- ・平常時の園内魅力向上
- ・耐震診断・危険木対策・園路整備の実施
- ・調査研究の充実と成果の公表
- ・学校向けプログラムの見直し
- ・ルーティンワークの適正化・効率化

## 統計

項目	令和元年度結果	平成30年度実績	平成29年度実績	平成28年度実績
総入園者数	96,237人	111,841人	116,772人	116,053人
有料入園者数(有料率)	44,174人(45.9%)	47,994人(42.9%)	52,117人(44.6%)	50,830人(43.8%)
外国人入園者数	6,847人	7,191人	6,342人	5,918人
総入園料収入	16,887,600円	18,636,800円	20,393,900円	19,890,660円
WEBサイトアクセス数 (英語版)	607,819件 (41,396件)	640,151件 (47,426件)	775,221件 (49,442件)	727,262件 51,586件
学校体験・見学校数	132校	192校	193校	196校
伝統工芸館藍染体験参加者 数(伝統工芸館事業収入)	1,956人 (4,126,668円)	3,029人 (4,659,645円)	3,233人 (4,251,612円)	2,937人 4,142,372円

## 1 民家野外博物館としての研究・展示・普及活動

### (1) 文化財建造物・民具などの保存・整理・調査研究と補修の推進

現状：25件の文化財建造物を移築復原し、長期計画を立てて補修工事を実施している他、日常的な維持管理業務として燻煙と清掃を行っている。総合防災事業については、消火設備・防犯設備のリニューアルが完成し、耐震補強工事が進行中である。資料の整理・研究活動については、建築分野では大岡實博士文庫の目録や民家園叢書の刊行を進めている。民俗分野では移築民家ごとの資料目録(調査報告)の完成を受け、引き続き暮らしと家をテーマに調査を実施、報告書の刊行を進めている。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	令和元年度年度計画(目標水準)	令和元年度実績	今後の課題	R1 評価	中期 評価
①文化財建造物維持管理の推進	三澤家・岩澤家・広瀬家屋根葺き替え(完成まで)。 新主任技術者への技術・知識等継承(完了まで)。 その他文化財建造物の適切な保存管理の推進(破損箇所随時)。	山下家屋根修理(完成まで)。 屋根はか小破修繕(破損箇所随時)。	山下家屋根修理(差茅)完了。 野原家(刺茅)・菅原家(棟杉皮)屋根補修。 伊藤家竹簀子床修理。 その他各古民家の床・建具等の補修、保存管理のための排水溝等整備。	土木工事を担える人材確保。 竹簀子床の修理手順の引継ぎ。	A	A
②総合防災事業・耐震補強工事の推進	三澤家・山下家耐震補強工事(完成まで)。 太田家耐震補強設計(完了まで)。 菅原家耐震診断(完了まで)。	山下家耐震補強工事(完成まで)。 江向家・作田家・菅原家耐震診断(完了まで)。 既存設備(防災・三澤免震)定期点検・補修(各1回)。	山下家耐震補強工事(完成まで)。 江向家・作田家・菅原家耐震診断(完了まで)。 既存設備(防災・三澤免震)定期点検・補修(各1回)。	既存設備の補修予算の確保。 各古民家の活用方針の明確化。	A	A
③[建築]収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	大岡資料整理(調査ノート目録3刊行)。 民家園叢書継続刊行(鈴木家・三澤家耐震補強工事報告冊刊行)、および報道発表。	大岡資料整理(調査ノート目録3刊行まで)。 民家園叢書三澤家耐震補強工事報告(刊行まで)。	大岡資料 原稿・調査ノート目録3刊行まで。 三澤家耐震補強工事報告書刊行まで。 竹簀子床修理報道発表。	大岡資料のうち、未整理資料の整理及び既刊目録のデジタルアーカイブ化。 資料の収蔵環境の整備。	A	A
④[民俗]収蔵資料の整理・調査研究の推進と成果の公表	耐震補強工事棟保管民具の仮収蔵場所への移動(完了まで)。 「暮らしと家」調査(報告書1冊刊行)。 教育普及活動を含む学芸成果の外部への発信、報道発表(年2回)。	小学校空き教室に移動した民具の整理(完了まで)。 「暮らしと家」調査(報告書1冊刊行)。 ミュージアムエドゥケーター連絡協議会にて学芸成果の報告(2回)。 本館地下収蔵庫の燻蒸実施(完了まで)。	小学校空き教室に移動した民具の整理。 「シリーズ暮らしと家」調査報告書刊行。 神奈川県博物館協会シンポジウムにおける取組成果の発表(3/7、中止)。 本館地下収蔵庫の燻蒸実施。	資料の収蔵環境の整備。 展示室の温湿度管理。	B	B
評定意見	文化財建造物の維持、防災のための工事は、当初計画以上のスピード感をもって的確に進められていることは、建造物の保存及び来園者の安全に資することであり、大いに評価できる。特に耐震補強工事に際して先駆的な工法を採用しており、工法の検討段階のものを含めて工事記録を公刊して、全国の文化財建造物保存工事の参考に供することが望まれる。複数年度にわたる工事計画については、年度毎の計画・実績において到達進度を割合で表示する等の工夫も検討すると良い。防災設備の点検・更新を計画的に進め、正常に作動する状態を確実に維持するよう努めること。修理・工事の実施にあたっては、事前に所要の申請・届出等を確実にを行い、手続き上の瑕疵・遺漏のないようにすること。建築資料・民俗資料については、整理・公開に向けた取り組みを今後も継続し、より広く活用されるように努めるとともに、実物資料の収蔵環境の整備を進めることが望まれる。					

## (2) 展示の充実

現状：25の文化財建造物を野外展示し、それを補うために本館に常設展示室と企画展示室を設置している。各古民家では地域の民具や年中行事の展示を行っている他、囲炉裏での火焚きや生活用具の製作風景、さらには屋根の葺替えなども展示の一環としてとらえ、作業風景を見せるための工夫をしている。常設展示室では、園全体の導入として日本の民家建築の基本を展示している。企画展示室では、民俗や建築をテーマに年2回企画展を開催し、合わせて関連事業を実施している。展示に際しては解説に英文を併記している他、スマートフォンを利用した4カ国語音声ガイド(日英中韓)を導入し、外国人向けのサービスにも力を入れている。						
実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	令和元年度年度実施予定	令和元年度実績	今後の課題	R1 評価	中期 評価
①常設展示(古民家内展示含む)及び関連事業の充実	音声ガイドの利用拡充および保守(毎年保守委託)。 古民家内展示整備(解説パネル16カ所、敷地図25カ所設置、主要民具解説キャプション35点)。 石造物解説板整備(13カ所)。 スタンプラリーのリニューアル(ハウス・シート・スタンプ完成まで)。 建造物解説の充実(古民家めぐり年24回、大規模工事ごとに見学会開催・解説パネル設置)。 さわれる展示手法の取り入れ(床上公開時に民具体験実施)。	音声ガイド保守、利用方法広報(手法の見直し)。 古民家めぐり実施(24回)。 工事見学会・完成報告会実施(2回)。 工事における建築解説パネル設置(屋根葺き替え、耐震補強工事実施時)。 さわれる展示手法の取り入れ。 蚕影山本尊のレプリカ作成(完成まで)。	音声ガイド保守・利用方法広報(園内掲示・チラシ)。 古民家めぐり実施(22回、中止2回)。 工事における建築解説パネル設置。 蚕影山本尊レプリカ作成(製作・蚕影山祠堂に設置)。 床上公開時に民具着用体験試行。	wi-fi環境の増強。 解説板の定期的な修繕。 当時の文化や生活の様子を知ることのできる道具等展示の充実	A	A
②企画展示および関連事業の充実	民家博物館として、特性を活かした話題性のある企画展示開催(年2本)。 さわれる展示手法の取り入れ(子供向け展示の場合に「触れるコーナー」設置)。 企画展中長期計画策定(計画書作成まで)。	企画展示「おこさまのくらしー岡上の養蚕信仰ー」「(仮)うんこのつかいみち」開催(印刷物刊行まで)。 「さわれる展示」設置(各企画展ごと)。 一般向け企画展示解説(10回)。 子ども向け企画展示解説(4回)。	企画展示「おこさまのくらしー岡上の養蚕信仰ー」「うんことくらしー便所から肥しまでー」開催(印刷物刊行まで)。 触れる展示(古民家での養蚕展示/おしりふきの道具)。 一般向け企画展示解説(9回、中止1回)。 子ども向け企画展示解説(3回)。	来園者を呼び込むためのテーマ、タイトルの工夫。 インバウンド対応としての英語を母語としない外国人向けの英語表記、やさしい日本語による案内の充実。 企画展の計画作成。	A	A
評定意見	企画展示は、興味深いテーマのものが開催され、来園者の関心も高かったものとみられる。古民家での暮らしの理解を進めるために、古民家で暮らしていた時期と、現代とをつなぐ時期の暮らしぶりを示す資料を展示に交えることも、今後さらに検討・実施することが望まれる。古民家の展示では、徐々に整備されてきているが、周囲の植栽の復元や、当時の暮らしぶりが視覚的にわかるような道具類の展示、体験活動等を、より一層積極的に実施することが望まれる。導入済みの音声ガイドがより活用されるように、通信環境の整備や来園者への周知等を継続的に取り組むことが望まれる。					

### (3) 教育普及活動の充実

現状：教育普及活動として学習講座・体験講座等を実施、特に子供や親子向けの行事、当日自由参加型の行事に力を入れている。また施設の特長を活かし、古民家の旧所在地と連携した事業にも力を入れ、各地の芸能公演や物産展などを行っている。この他、学校との連携を進め、小学生の体験学習や中学生の職業体験の受け入れを行っている。また、炉端の会・民具製作技術保存会は民家園の教育普及活動を支え、協力者会議を開催して事業運営の改善を進めている。指定管理者は伝統工芸館の充実を進めている他、さまざまな自主事業を行っている。						
実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	令和元年度年度実施予定	令和元年度実績	今後の課題	R1 評価	中期 評価
① 各種事業(講座・ワークショップ・催事)の充実	子供向けワークショップの充実(年平均6回)。 当日受付型・自由参加型事業の充実(年平均25回)。 生田緑地他館等との連携事業の充実(年平均2回)。	子ども・親子向け行事、講座(6回)。 ミニワークショップ(6回)。 当日参加型体験事業(20回)。 科学館との連携行事(2回)。	子ども・親子向け講座(6回)。 ミニワークショップ・当日参加型体験事業(31回、うち4回は博物館実習生によるワークショップ)。 科学館との連携行事(七夕・月見)。	参加者の少ない行事の見直し(廃止を含む)。 適正な行事数の検討。	A	A
② 旧所在地交流事業の充実	南砺市、甲州市、福島市との交流事業の充実(年平均各1回)。 旧所在地交流事業の拡充(九十九里町など)。	南砺市・甲州市・福島市・伊那市との交流事業実施(計4回)。	五箇山がやってくる(7/6・7)。 伊那のほおづき提灯展示(9/13)。 あそびにこらんしょ実・湧・満・彩 福島市(10/19・20)。 甲州市の枯露柿展示(11/19～12/20)、ぶどう盆栽展示、桃の花展示(3/12～)。 古民家と日本酒の夕べvol.2(3/21、中止)。	伊那市との交流事業の充実。 甲州市との交流事業の予算化。	A	A
③ 学校との連携の充実	学校利用増加(年平均5校増)。 多摩区三大学(専修大・明治大・日本女子大)との連携推進(留学生モニター毎年3回実施)。 見学学校用教材増補(完了まで)。 インターナショナルスクール向け教材作成(完成まで)。	学校利用増(197校)。 行事案内発送(近隣校/夏休み・月見/家庭と地域の日)。 新学習指導要領対応プログラムの作成(完成・学校への提案まで)。 インターナショナルスクール向け教材作成(完成まで)。 市制記念日・家庭と地域の日に合わせて子ども向け行事の開催。 学校郷土資料室等整備支援(メンテナンス実施 2校)。	学校利用(学校見学・体験132校、職業体験・インタビュー5校)。 近隣小学校5校への行事案内発送(七夕・夏休み・月見/人形浄瑠璃)。 新学習指導要領対応プログラムの作成(完成・学校への提案まで)。 市政記念日・家庭と地域の日に合わせて子供向け企画展示解説の実施(7/1、10/15)。 学校郷土資料室整備支援(メンテナンス実施 2校)。	学校利用の変化への対応(新学習指導要領対応プログラムの実施・改良、体験希望校向けサポート・連携方法の研究、インターナショナルスクール向けプログラムの実施・改良、教材の改良)。 運営協力校(収蔵スペース提供校)へのサービス提供方法の検討	B	B

④市民活動団体との連携の充実	<p>炉端の会、民技会との連携の強化および両者との協力者会議による運営改善(協力者会議年1回)。 昔話、お茶会等の団体との連携の充実(昔話30回、お茶会2回)。</p>	<p>協力者会議開催(1回)。 昔話(25回)・0歳児からのむかし話(5回)。 伊藤家竹簀子床修理技術の継承(完成まで)。 炉端の会入門講座の実施(1回)。 民技会新人研修(講師派遣)。 炉端の会学習会の年間カリキュラム作成(配布まで)。</p>	<p>協力者会議開催(3/1、中止) 昔話・0歳児からの昔話(27回、中止3回) 伊藤家竹簀子床修理技術の継承(2/8～2/15 完成まで) 炉端の会入門講座の実施(1回、ただし一部延期)、炉端の会活動マニュアルの見直し 民技会新人研修(講師派遣) 炉端の会学習会年間カリキュラム作成(配布・実施まで)</p>	<p>市民活動団体とのコミュニケーションの確保 市民活動団体の活動の充実</p>	A	A
⑤伝統工芸館・自主事業の充実	<p>本藍の継続的使用のため複数スタッフの技術向上(研修機会確保)。 自主事業の充実(年5回以上)。</p>	<p>染色技術の研修受講(1回)。 草木染めと藍染めの新商品の開発(2点)。 新しい素材を使ったワークショップの実施(1回以上)。 ミニ展示開催(5回)。 絞り染め、型染め講座開催(5回)。</p>	<p>ミニ展示(7回)。 藍染め講座11講座。 特別展示「染色の世界」(ビクターセンター)。 渋谷教育館出張講座 自主事業(古民家カフェ・キッチンカー)。 多摩川エコカップ出場、川崎日航ホテル夏フェス・麦酒処・ペーゴマ大会・民家園縁日、回り灯籠WS・物販の充実)</p>	<p>外国人の利用者増にむけた多言語対応。 工芸館7・8月の熱中症対策(空調機設置)。</p>	A	A
評定意見	<p>講座・ワークショップ・催事等の実施状況は大変充実しており、評価に値する。ただし、実施状況が回数を維持することに重点が置かれたり、担当職員数や他の業務に照らして過度な負担となることのないよう、参加者の意見も参考にしながら、適正な回数・内容・実施時期であるかの検討を行い、必要に応じて見直しも図るべきである。旧所在地交流事業は年々充実してきているが、予算措置も含めて相手方自治体と相互のメリットになるように配慮しつつ、さらに推進していくことが期待される。学校連携の充実は、市立学校の教員研究部会と協力して、教育課程の変更に対応した取り組みを行ってきたが、実際の来園・利用につながるように、来園プログラムの開発を行うほか、学校関係への働きかけを継続して行っていくことが求められる。市民活動団体との連携については、団体の主体性を尊重しつつも、団体の組織・活動の活性化に協力することが、園側にも有効と考えられるので、相互に一層の意思疎通を図り、情報の収集や周知を密にして、目標や課題点を共有し、協力して園の運営に当たれるように努めること。</p>					

## 2 民家野外博物館としての運営・管理活動

### (1) 博物館経営(ミュージアム・マネージメント)の整備・充実

現状：平成25年度より指定管理者制度を導入し(5年毎に更新)、維持管理(文化財を除く)・広報業務を指定管理者が担っている。市の職員、指定管理者の職員、いずれも資質向上のため各種研修への参加を促している。また、来園者数向上を目標に、リピーター確保のための工夫を重ねている。危機管理については各種防災訓練を実施、危機管理マニュアルを随時更新している。						
実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	令和元年度年度計画(目標水準)	令和元年度実績	今後の課題	R1 評価	中期 評価
①運営体制・研修等の充実	運営の充実につながる次期指定管理の準備と円滑な移行(移行完了まで)。研修機会の継続確保(市職員年1回以上)。事業評価の実施と活用(毎年実施・公表)。市専門職員の確保(民俗1名)。	庁内研修・外部の専門研修・勉強会への参加(市職員1回以上)。園内研修実施(職員の異動・採用・交代に伴い随時)。事業評価の実施と活用(令和元年度分実施、平成30年度分公表)。	庁内研修・ミュージアムエデュケーション研修・県博協研修会・民俗資料レスキューワークショップ等、近現代建築アーカイブズ講習会・緊急救命講習・国際交流WSへの参加。園内研修実施(新任職員)。事業評価の実施と活用。	指定管理業務と直営業務の区分けの明確化。次期指定管理にむけた準備。	A	A
②入園者数・入園料収入等の確保	入園者数増(年間平均130,000人)。有料入園者増(年平均60,000人)。年間パスポートの増によるリピーターの拡大(年平均5,500人)。外国人入園者増(年平均6,500人)。	総入園者数増(132,000人目標)。有料入園者数増(60,000人)。年パス利用者増(5,500人)。外国人入園者数増(7,900人)。	入園者数96,237人。有料入園者数 44,174人。年パス利用者 3,185人。外国人入園者 6,847人。	オリ・パラに向けた訪日外国人の誘客。	C	C
③危機管理への構えと対応	危機管理マニュアルの継続的増補、職員への徹底(毎年項目見直し、読み合わせ)。来園者と文化財の安全確保、案内等質の高い警備の実施(マニュアル作成)。防災訓練の実施(毎年4回)。	新任警備員への研修(年1回)。防災訓練実施(年4回)。緑地全体での災害訓練実施(机上訓練まで)。	新任警備員への研修。防災訓練実施(4回実施)。炬燵の会活動マニュアル内の災害対応マニュアルの見直し。東日本台風への対応(当直、翌日の園内片付けの体制確保、臨時休園の対応)。新型コロナウイルス感染症への対応。	感染症対策(マスク・消毒用アルコールの備蓄、業務継続計画の見直し)。多言語による有事対応カードの作成。	B	B
評定意見	入園者数が天候に左右されるのは、野外博物館の宿命であり、大規模行事時の悪天候、工事に伴う飲食提供施設の長期休業、気象災害や新型コロナウイルス感染症の流行等の影響も考えられるが、入園者数の大幅な落ち込みによる目標の未達は大変残念である。この事態を深刻に受けとめて、原因の分析と対応策の検討を早急に行い、民家園及び生田緑地が一丸となって、入館者数の向上・回復に向けた手を打っていくこと。川崎市市民ミュージアムの想定を超えた被災を教訓として、非常事態に対応し、民家園の活動を持続可能とするように、危機管理マニュアルの見直しや、次期指定管理期間の仕様書の作成準備を行うこと。					

## (2) 魅力発信と広報の強化

現状： webサイト・SNSによる広報、地域団体・企業・庁内関係部署や県と連携した広報を展開している。また外国人誘致にも力を入れ、英語版のWEBサイトを設けている他、リーフレットは12カ国語(日・英・中・繁・中簡・韓・仏・独・スペイン・ポルトガル・タガログ・タイ・ベトナム)に対応している。また、全ての案内板に英文を、一部の案内板は英語・中国語・韓国語を併記している。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	令和元年度年度計画(目標水準)	令和元年度実績	今後の課題	R1 評価	中期 評価
①民家園・生田緑地の魅力発信	民家園・生田緑地の効果的情報発信。オリンピックパラリンピックに向けた広報の充実(広報の工夫・強化と入園者増)。生田緑地他施設・他局・観光協会・地元商店会・神奈川県等と連携した広報および連携先の開拓。優待サービスの効果的な広報と利用促進(利用者増)。来園者ニーズ把握方法の見直し(見直し案作成・実施)。	指定管理者の関連企業のルートを使った広報の実施(東急沿線等)。アンケートの有効サンプル数向上(アンケートキャンペーンの定期的実施、リピーターである年間パスポート利用者へのアンケート実施)。年間パスポートキャンペーン(1回)。	東急沿線・小田急沿線・JR登戸駅などと連携した駅貼り広告の実施、親子向けお出かけサイトへの有料広告出稿。炬燵の会と連携したアンケートの有効サンプル数向上。	遊園跡地再開発に伴う緑地全体の広報の拡充。オリ・パラにむけたインバウンド広報宣伝の強化。	B	B
②一般向け広報とサービスの充実	広報の充実(駅貼り・車内貼り・街路灯フラッグ実施)。WEBサイトの充実(アクセス数年平均830,000)。SNSを活用した広報(投稿月平均1回)。	SNSを活用した広報の実施(公式ツイッター)。公式サイトをウェブアクセシビリティJIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠させたリニューアル完了。	公式ツイッターによる広報の実施。公式サイトのリニューアル。	ツイッターの分析による広報計画の策定。広報ツールの拡充。効果的な有料広告サイトも視野にいれ計画。	A	B
③外国人向け広報とサービスの充実	多言語音声ガイドの周知による魅力向上(ダウンロード数の国別集計実施)。音声ガイドの言語拡充(1カ国語)。英語版WEBサイトの充実(アクセス数年平均55,000)。	SNSを活用した広報の実施(公式ツイッター)。伝統工芸館における外国人対応の充実。英語版ウェブサイトのコンテンツ充実(PDFリーフレットの改訂、禁止事項の伝達方法の検討)。	公式ツイッターでの英語による投稿。英語ウェブサイトのコンテンツ充実(PDFリーフレットの改訂、禁止事項の伝達方法の検討)。海外小学校見学へのボランティアによる英語対応の試行。伝統芸能公演の英語ポスター作成、配布。歌舞伎・人形浄瑠璃における通訳サービスの提供。春節に合わせた中国旅行会社への資料送付、伝統工芸館春節キャンペーン(企画広報を行ったが中止)。	伝統芸能公演の外国人向け広報手段の検討。情報サイトの口コミ分析を通じた広報手法の検討。	A	B
評定意見	魅力発信・広報活動については、計画通り実行しているほか、近年増加傾向にある外国人利用者向けの広報や外国語サービスの向上に努めている点は評価できる。広報については、民家園に対する関心を高め、入園者数の拡大に資するよう、来園者調査で媒体や手法の効果を検証し、効果的な広報につなげる等の工夫が期待される。					

### (3) 利用者の利便性・快適性・安全性の向上

現状： 来園者サービス施設として救護室や授乳スペース等を整備、ベンチやテーブル等のリニューアルも進めている。敷地内の環境は展示の一環として整備を進め、民家の旧所在地に合わせた植栽や、景観にふさわしい案内板の設置を行っている。また、バリアフリー化として古民家の敷居にスロープを用意、園路についても手すりの設置や一部土舗装化など対応を進めている。この他、来園者へのサービス向上のため、ショップの充実と窓口業務の改善に努めている。

実施目標	中期目標(3年、H31まで)(目標水準)	令和元年度年度計画(目標水準)	令和元年度実績	今後の課題	R1 評価	中期 評価
①来園者サービス施設の充実、快適性の向上	窓口・ショップの充実(繁忙期人員増)。新しい休憩施設等サービス向上に向けた取組の推進(実施に向けての設計等)。山下家耐震工事中の飲食提供業務の確保(実施まで)。船越の舞台客席改修(完成まで)。休憩スペース改修(露天の全ベンチ改修)。継続的な商品開発(毎年2点)。	炉端の会・民技会と連携した商品販売(30点)。休憩スペース改修(ベンチリニューアル)。窓口・ショップの充実。中国語対応の充実。	キッチンカーの導入(本館前)。古民家カフェの事業者変更。中国語を母語とするスタッフの配置。ショップで扱うグッズリニューアル。藍染グッズの商品開発(エコバック、タペストリー、おはし袋、120cmてぬぐい)。	キャッシュレス対応、券売機等の導入。受付の多言語対応。	B	B
②環境整備による安全性・快適性の向上	園路整備の効果的な推進(園路の全泥濘箇所)。安全に配慮した危険箇所への対応(全急坂・階段への手すりの整備等)。	高倉周辺整備工事。危険箇所への対応(劣化箇所等随時)。危険箇所確認の定期点検(年1回)。	高倉周辺整備工事(車両通行が可能に)。危険箇所への対応(劣化箇所等随時)。危険箇所確認の定期点検(4/19実施)。警備本部前広場の整備。泥濘対策(竹チップの活用)。	避難路・避難場所の設定。園路整備箇所への手すり設置。	B	B
③博物館にふさわしい植栽の整備	植栽管理の適切な実施(必要に応じ随時)。危険木対策(発見次第随時)。古民家の旧所在地に合わせた植栽整備(記念樹の植樹と育成)。	下草刈り実施。計画に基づいた植栽管理。枝おろし、草刈、柵補修等(必要に応じ随時)。民家園内の危険木整備(年次計画による実施、初年度目)。植栽管理計画の作成(完成まで)	下草刈り、枝おろし、草刈、柵補修等随時実施。計画に基づいた植栽管理(記念樹・クワ・ニワトコの育成、管理の実施)。園内危険木・支障木の整備(1年目/高倉周辺・本館脇周辺)。植栽管理計画の作成(生田緑地全体の植栽管理計画の中に民家園内位置づけることを決定)。生田緑地マネジメント会議自然会議での定期的な報告。	花木の植樹・植栽による魅力向上(桜・あじさいなど)。年中行事展示に利用する植物の確保(ニワトコ、里芋・枝豆)。	A	B
評定意見	全般的に計画に従って事業が進められていると認められる。園路の整備については、特に泥濘対策については、利用者の安全性・快適性確保の観点からスピード感をもって進めることが望まれる。工事に伴う迂回仮設通路の位置・幅員等、通行者の安全確保についても、十二分に配慮することが望まれる。さらに長期的には高齢者・足の不自由な者の歩行や、車いすやベビーカーの通行に支障がなく、管理用車両の通行も考慮した幅員・勾配での園路整備について、検討していくことが望まれる。民家のニワの泥濘対策にも、積極的に取り組むことが期待される。その際には、地下に埋設した防災設備に伴う地表工作物について、位置や景観への影響を考慮した是正措置をとることが求められる。植栽の整備は、危険性の除去や古民家等の展示景観に配慮して、計画的に進めることが望まれる。					